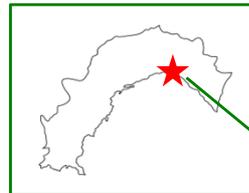


背景・課題

高知県の東部に位置する芸西村は、県内のトルコギキョウ栽培面積16.3haのうち5.4haが栽培されている主要産地であるが、多くのほ場で土壌病害の青枯病、立枯病が問題となっている。これら病害の防除対策としてクロルピクリンによる土壌くん蒸があるが、土壌深部の病原菌を防除できず、専用の機器を用いるため作業性も良くない。低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒は土壌深部への効果が期待できるうえ、かん水チューブを用いてほ場内に処理するため省力的である。さらに、農薬処理に伴う暴露回避ができるため作業者にとっても安全な技術であり、検証により安定的な効果が確認できれば産地に広く普及することが期待できる。



芸西村

構成員

高知県、JA高知県、農研機構

品目

トルコギキョウ（施設）



●トルコギキョウ立枯病

成果目標と達成状況

○低濃度エタノールによる土壌還元消毒の技術確立

取組の成果

- 枯死株率は、処理前の16.7%（前作終了時、R4.5月）から、処理後では2.6%（R5.3月時点）に減少し、土壌くん蒸剤使用と比較して、優れた結果が得られた。
- 作業時間は、10aあたり4～5時間であり、土壌くん蒸剤使用と比較して大きな差はなかったが、多くは待機時間であるため労力や負担感はあまりないという感想であった。
- 資材コストは、10aあたりクロルピクリンが5万円、低濃度エタノールが16万円で約3倍となるものの、土壌病害による損失額は処理前の87万円から処理後では14万円に減少した。



●低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒（フィルム被覆）



●現地検討会

普及に向けた取組

令和4～6年度の実証結果を踏まえ、令和6年度に「グリーンな栽培体系導入マニュアル」を作成し、生産者を対象とした講習会等の実施により、普及組織とJAが連携して地域への普及・定着を図る予定。